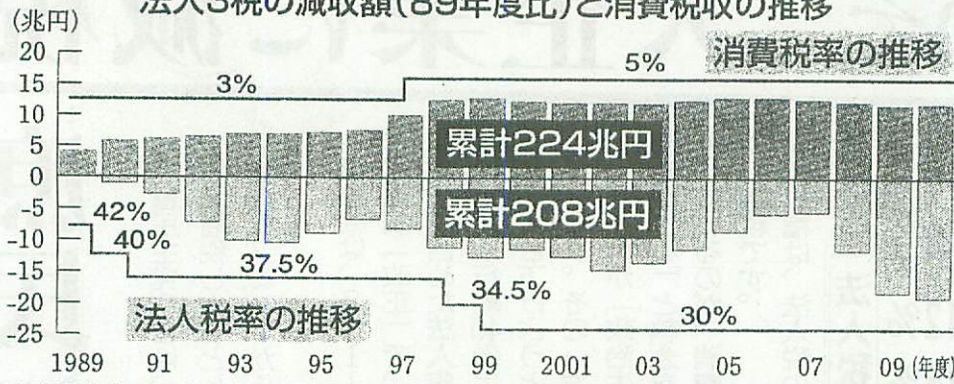


法人3税の減収額(89年度比)と消費税収の推移



(注) 国・地方とも08年度までは決算額、09年度は国は補正後見込み額、地方は当初計画の見込み額、10年度は予算見込み額、法人3税は法人税、法人事業税、法人住民税



「税と社会保障の一体改革」?

Q 菅内閣が「税と社会保障の一体改革」を示しているけれど、どう思いますか?

A 「社会保障にはこれだけお金がかかる」として、「それを支える安定財源が必要だ」と、国民に消費税増税を求めようとしているのだよ。

Q やっぱ、消費税なのかな?

A 菅内閣は昨年12月に「社会保障改革の推進について」という閣議決定をしたんだ。そこでは、「改革」の基本方向は、民主党の「税と社会保障の抜本改革調査会中間整理」と「社会保障改革有識者検討会報告(社会保障ヒシヨン)」に示されていると書いてある。

民主党の「中間整理」

は、社会保障の財源として「消費税は非常に重要」「消費税を含む抜本改革に政府は一刻も早く着手すべき」としている。有識者検討会の「ヒシヨン」は、「社会保障を支える税財源としては、消費税を基本に考えていくべきである」と求めているよ。

Q そうなったら、社会保障を充実させなければ消費税増税だ、ということになるよ。

A そのとおりだ。社会保障を最も必要とする低所得者層に最も負担が重いのが消費税。社会保障のために低所得者からお金を取る、というのはおかしな話だよ。だいたい、「社会保障のため」といって消費税が導入されて以降、消費税の税収

は224兆円、法人税の減収が208兆円で、社会保障は改悪の連続だ。

潮流

1999年末のことです。給与をもらって民間会社で働く人は、5252万5千人でした▼みんなに支払われた給与の総額は、217兆4867億円。1人あたり414万0632円となります。さて、10年後の2009年末です。給与所得者は5388万4千人に。135万9千人ふえています▼ところが、支払われた給与の総額は192兆4742億円。逆に、25兆0125億円減っています。1人あたりで、56万8622円減の357万2010円です。以上は、国税庁が毎年実施している調査から▼もちろん、一人ひとりの働く人や一つ一つの会社の事情はぬきの数字です。さらに、給与の総額を25兆円ふやし、1999年末の水準に戻せば、1人

あたりの給与は403万円あまりに。頭数が多くなっている分、10年前におよびませんが、46万円ほどふえます▼ここで人々が、ふえた25兆円の6割を外で使うとすれば、15兆円が消費に回り経済を元気づけます。税金もよい国に入るとしよう。というのも、同じ10年間に、給与から天引きされた所得税は、減収のありで2兆円以上落ち込んでいたのですから▼給与や税金と反対に右肩上がりにふえ続けた、企業の内部留保を賃上げに生かす。25兆円なら、資本金10億円以上の企業が07年度から09年度に積み増した内部留保、37兆円より少ない。使い道がない蓄えを取り崩して、なにか不都合があるでしょうか。大ざっぱな計算から、世にいう閉塞感からの出口の一つがみえてきます。

Q 他に財源はないの?

A 大企業や大資産家が単年度で21兆円も減っている。それを段階的に元に戻せば社会保障を支える財源は十分あるよ。

消費増税では改革にならない

しんぶん 赤旗
 月刊 ● 月 2,900円
 日曜版 ● 月 800円

議案・請願	賛成	反対	備考
◎ 職員の給与・一時金を削減・減額する条例	安田 忠・岡・津田・福西・土田 多久和・江見・大崎・鈴木・平岡 大矢根・安田 末・吉田・梶田 宮坂・北上・久保・宮路・秋田・松田	住田・森本・北野・黒田	欠席 吉富
◎ 上記の具体化の補正予算	安田 忠・岡・津田・福西・土田 多久和・江見・大崎・鈴木・平岡 大矢根・安田 末・吉田・梶田・吉富 宮坂・北上・久保・宮路・秋田・松田	住田・森本・北野・黒田	
◎ 川西病院の給食を民間委託する内容の債務負担行為	同上	同上	
◎ 「子ども、子育て新システム」に対する国への意見書の提出を求める請願	(継続すべき) 安田 忠・岡・津田・福西・土田 多久和・江見・大崎・鈴木・平岡 大矢根・安田 末・吉田・梶田・吉富 久保・宮路・松田	(即決すべき) 住田・森本・北野・黒田 宮坂・北上・秋田	継続に
◎ 市立ふたば幼稚園の廃園を再協議してほしいという請願	住田・森本・北野・黒田	安田 忠・岡・津田・福西・土田 多久和・江見・大崎・鈴木・平岡 大矢根・安田 末・吉田・梶田・吉富 宮坂・北上・久保・宮路・秋田・松田	
◎ 就学前までのこどもの医療費無料化を求める請願	同上	同上	
◎ 妊婦健診14回分の予算継続を求める意見書提出を求める請願	同上	同上	

・「子宮頸がん予防ワクチン、肺炎球菌ワクチンの公費補助を求める請願」は、みなし採択になっています。
・小山議員は議長です。

職員給与削減に反対、特別職・議員の削減は賛成

12月議会では、31案件、6請願が審議。うち意見の分かれた議案、請願の結果は別表の通りです。

私達日本共産党議員団は、委員会で見解を述べるだけでなく、必ず本会議でも討論し、最後まで住民要求の実現に全力を尽くします。議会はすべて公開、会議録もHPで公開中です。ぜひ、ご覧ください。

職員給与削減に反対、特別職・議員の削減は賛成。公務員の給与は、この間毎年のように引き下げられています。生活のために必要な給料なのに、「人件費はムダ」とする考え方が蔓延し、今回の減額だけで、1億3400万円。昨年から実質賃金が下がりはじめ、

住宅ローンの借り換えなど深刻な影響が出ています。

現在でも川西市の高校卒業事務職員の給与は時間換算で980円ですが、これは「高すぎる」といえるでしょうか。全国の勤労者の給料はこの12年間で64万円減少し、逆に税金と社会保険料などの負担は増加。地域経済が大きく疲弊する原因になっています。

公務員の給与や一時金の削減は、民間企業の引き下げと連動、地域疲弊の悪循環に陥ります。今必要なのは、雇用を拡大し給料を上げ、購買力を高め、地域経済を活性化することです。

なお、特別職や議員の減額については賛成しました。

病院給食民間委託に反対

給食は治療の一環であり、調理員はチーム医療の一員として役割を担っています。経費削減の委託化は、医師確保や患者の信頼やサービスに後退するものとして指摘、反対しました。

子育てに関する請願採択に奮闘

「子育て守れ!の意見書」 「妊婦健診の補助継続を提出を求める請願」に賛成
「国に対して、保育所と幼稚園の一体化などの課題(子ども子育て新システム)を慎重に審議するよう意見書の提出を求める」請願。予算国会に間に合うよう「即決すべき」と求めましたが、継続多数となりました。本請願の紹介議員に名前を連ねた松田議員は「継続」に。3月議会、再審査されます。

「就学前までのこどもの医療費無料化」に賛成

「市長がやると言っているから請願は出さなくていい」と不採択に。私(黒田)は、まだ具体的でないし、県行革で対象が狭められようとしていることなどの問題を指摘。すべてのこどもを対象に1日も早い実施を求めましたが、不採択に。

「予防ワクチン」などはみなし採択に

「子宮頸がん予防ワクチン、肺炎球菌ワクチン接種の公費補助を求める請願」は、厚生経済常任委員会では、黒田を除く委員が、「タイミングが悪い」と不採択にしましたが、委員会後、「それらの予算の具体議案」が提出されたため、「みなし採択」になっています。



黒田 みちさんと共に「春よ来い」

日本共産党東谷後援会会長
松岡 正章 (弁護士)

寒中お見舞い申し上げます。

菅首相、去る5日のテレビ番組で所信表明。それは、国民のくらしと日本経済を壊し、国民の声を足蹴にするものでした。①法人税減税とセットの消費税増税②環太平洋連携協定(TPP)参加③衆・参両院の比例定数削減などの意向を示すものでした。これらはすべて財界の要請に応ずるものです。

「基地のない沖縄を」と県民の約7割が辺野古移設に反対しているにも関わらず、日米合意推進の「一点張り」です。

このように、菅政権が顔を向けているのは、財界とアメリカ。地方や農家や中小企業の苦境に目を向けようとしません。これでは、「開国」ではなく「壊国」、「最小不幸社会」どころか「最大不幸社会」です。この「行き詰まり」を住民が主人公の地方政治を確立・推進することによって打破しましょう。

「みちさん」と共に。

たんぽぽ
だより

100号

お

め

で

と

う

!

笑みが広がる

自分でもそうだがピラが配布されているとなんとなく、うさんくさくすり抜けるのが普通だと思っていた。

ここは、ちょっと違う。にこやかに笑みを浮かべ、ピラに寄って来られる。

「ご苦労さん。」の声も。

自分の身近な問題・降りかかっている課題が同じ目線できっちり書かれているからだろう。マスコミにないミニコミの良さ、100号もの気長なガンバリ。それを裏付ける議員の旺盛な活動。

笑みが広がるはずや。

さらに200～300号目指して、元気に！

歩きながら 歌いながら

黒田さん、100号達成おめでとう。

超多忙な生活の中でのこの快挙。大目標への一里塚であるかもしれませんが、大変ご苦労されての偉業だと思います。

吉永小百合の「勇氣あるもの」という歌の中で「この道は長いけれど歩きながら行こう～」というフレーズがあります。まさに黒田さんのための歌です。「石っこだらけでも歌いながら行こう～」と続きます。


貴女の掲げる高き理想に多くの人が共に辿りつきたいと念じています。

若者の声を市政に国政に

たんぽぽだより100号達成。いろいろご苦労があったと思います。一読者として毎月楽しみにしています。

21世紀を迎えて早や11年。新しい年を迎えましたが、ますます先の見えない社会になっているように感じられます。私達も人生の半ばを過ぎ、これから先のことを考えると不安になることもしばしばです。昨今、若者の選挙離れがいられています。我が息子2人を見ても自分達のこれからの事を真剣に考えて投票しているのだろうか・・・と。

今年も多くの若者が成人式を迎えました。社会の一員としての権利を無駄にすることのないよう、世の中の事にも関心を持って欲しいと思います。たんぽぽだよりを一人でも多くの若者に読んで欲しい、これが一市民としての私の思いです。若者のどんな小さな声でも黒田議員に拾って頂いて、市政にそして国政に繋がることをねがっています。

 美山台 岡崎

  大和 山田

    東睦野 大西